

第1回江南市下水道事業経営戦略策定委員会 議事録（概要）

会議名 : 第1回江南市下水道事業経営戦略策定委員会

開催日時 : 令和元年7月12日（金） 午前10時～午前11時50分

場所 : 江南市役所 3階 第3委員会室

委員 : 出席委員5名（欠席2名）

奥村 真也（学識経験者）

横山 幸司（学識経験者）

柴田 喜充（各種団体）

大脇 勇（公募市民）

古田 みちよ（公募市民）

（欠席）浅野 敏夫（各種団体）

（欠席）小川 隆史（各種団体）

事務局 : 伊藤（下水道課長）

前田（下水道課主幹）

柴垣（下水道課計画工務グループリーダー）

大池（下水道課業務・経営グループリーダー）

平山（下水道課業務・経営グループ）

傍聴人数 : 0人

資料

資料1 江南市下水道事業経営戦略策定委員会委員名簿

資料2 江南市下水道事業経営戦略策定委員会設置要綱

資料3 会議の公表及び公開について

資料4 江南市下水道事業経営戦略策定の概要

資料5 経営戦略策定について

資料6 江南市下水道事業の現状

議題

- 1 会議の公表及び公開について
- 2 江南市下水道事業経営戦略策定の概要
- 3 経営戦略策定について
- 4 江南市下水道事業の現状

1. 開会

2. あいさつ

下水道課長あいさつ

3. 委員及び事務局自己紹介

4. 会長及び副会長の選出

委員の互選により、会長に横山幸司氏、副会長に奥村真也氏を選出

5. 議題

(1) 議題 1. 会議の公表及び公開について

○事務局： ～資料 3 について説明～

事務局より説明があり出席委員一同より了承された。

(2) 議題 2. 江南市下水道事業経営戦略策定の概要

○事務局： ～資料 4 について説明～

(3) 議題 3. 経営戦略策定について

○事務局： ～資料 5 について説明～

(4) 議題 4. 江南市下水道事業の現状

○事務局： ～資料 6 前半（16 ページまで）について説明～

○委員： 江南市公共下水道事業基本計画、五条川右岸流域関連江南市公共下水道事業計画など様々な計画が記載してあるが、違いは何か教えてほしい。

○事務局： 上位に伊勢湾流域、その下に名古屋港流域、さらにその下に五条川右岸流域に関する計画があり、それらを上位計画として江南市の下水道事業に関する計画があり、計画にもとづき本市は下水道事業を実施している。

○委員： 江南市の下水道の普及が愛知県のほかの自治体と比べて遅い理由や背景は何か。

○事務局： 市内や市の近くで処理水を放流できる大きな河川がないため、江南市単独で処理場を作るのではなく、他の自治体をまたがる流域下水道として五条川右岸浄化センターを整備することが早々に計画された。ただ、五条川流域下水道は、愛知県内でも比較的遅い整備開始だったこと、また、浄化センターからの距離が遠く、近隣から徐々に管の整備をしていったため、江南市の管の整備開始が遅くなったことが、大きな要因ではないかと考えている。

○委員： 排水量と今後の予測では、1 日当たり平均排水量予測値が、ほぼ一定に増加しているように見える。人口密度が低い市街化調整区域の整備をこれから進めていくのであれば、排出量はこれまでと同じような割合では増加しないのではないかと。

- 事務局： 現在は市街化区域の下水道を整備しているが、令和3年度までに市街化区域内の下水道整備を終えた後は、市街化調整区域の整備を順次実施の予定である。江南市は市街化調整区域の人口密度が比較的高いという特性があるため、排水量としてはこのような予想をしている。
- 委員： 市街化区域の下水道整備後、市街化調整区域まで整備区域を広げるのは、あいち下水道ビジョンに沿ってということか。その理由づけはどのようなものか。
- 事務局： 下水道整備方針は各自治体で決める形になるが、現状は江南市公共下水道事業基本計画にもとづき下水道整備を進めている。
- 委員： 市街化調整区域に下水道を引くことは、費用対効果から考えると非常に難しい。それをあえてすべきというのはなぜか。
- 事務局： 国の方針等にもとづき、江南市として全域を合併処理浄化槽で整備するか、下水道で整備するののかという比較を平成27年度に行った。その結果から、市内のほぼ全域を下水道整備の対象とし、江南市公共下水道事業基本計画を策定した経緯がある。現在はこの計画にもとづき下水道を整備している。しかし、実際に整備を進めているなかで、事業費が非常にかかっていることもあり、経営戦略の策定に向け、過去の計画を継続すべきかどうかといったことも検討していただきたい。
- 委員： 今の計画を変更せずに下水道整備を進めれば、お金がかかりすぎる。昭和の時代から下水道整備を進めてきた自治体と、平成に入ってから遅れて進めてきた自治体とでは状況が異なるので、全体計画区域の全部で下水道を整備するのではなく、合併処理浄化槽での対応も視野に入れ、どの方法が良いのかを早く決めたい。市街化区域の下水道整備が済んだ後、次はどうかをこの策定委員会で検討する必要がある。江南市は単独処理浄化槽が多く残っているので、借金もあるなか、市の財政力を踏まえてどうしていくかを皆さんと一緒に検討していきたい。
- 事務局： ～資料6 後半（17ページから）について説明～
- 委員： 水洗化率の数値は、下水道以外の施設も含んでいるのか。
- 事務局： あくまで下水道に関する数値のことで、下水道の処理区域内人口のうち、実際に下水道に接続している人口の割合を示したものである。
- 委員： 市が下水道を整備した区域でも、合併処理浄化槽や単独処理浄化槽などを使っている人が約3割いるということか。
- 事務局： そうである。

- 委員： 合併処理浄化槽を設置している家庭は、後から整備した下水道にはなかなか接続していただけていないということか。
- 委員： 市の職員が各家庭を訪ね、下水道への接続依頼を行っていると言っている。しかし、合併処理浄化槽の設置の場合は、宅内配管が整備済みのため、下水道接続に関する工事費は安く済むのでまだいいが、単独処理浄化槽や汲み取り便槽を設置の場合は、宅内配管の整備から始める必要があり工事費が高つくため、なかなか接続してもらえていないと思う。
- 委員： 市街化調整区域の下水道整備を進めることで、水洗化率が下がる可能性が高いのではないか。
- 委員： 下水道を整備する区域の全戸が接続するというのなら、整備を進めることに意味はあると思うが、実際そうではないため、整備を進める計画はそろそろ変えないといけない。
- 委員： 汚水処理原価が高いことはわかったが、市街化調整区域まで整備を広げることによって、どう変化するか今度示されるのか。
- 事務局： 次回以降、シミュレーションを示したいと考えている。
- 委員： 維持管理費用は合併処理浄化槽のほうが安い場合があるので、下水道へ接続する必要はあるのか。
- 事務局： 下水道法上で、市が下水道を整備した区域は速やかに接続する義務が生じるため、比較的新しい合併処理浄化槽を設置している場合でも、下水道に接続する必要がある。下水道工事によって不必要となった浄化槽は、雨水貯留槽として活用できるため雨水対策に貢献できるということも考えると、市街化区域内の方については下水道に速やかに接続していただきたい。
- 委員： 上水道や都市ガスは、整備したら多くの人に使ってもらえると思うが、下水道は違うことがわかった。単独処理浄化槽が良くないということのPRも必要だろう。
- 委員： 費用対効果などいろいろ考えて、今までの全体計画区域の全部を下水道で整備するという考えは、財政負担など大変なことになることを不安に感じている。下水道整備の考えは、もうどこかで変えなくてはならない。
- 会長： それが我々に課せられたこの委員会の使命だと思う。

6. その他

今後の予定について

- 事務局： 第2回 10月11日に開催予定
第3回 10月29日に開催予定

7. 閉会